

前期売上高500億円超

ダイセキ

リサイクル事業 赤字拡大も改善へ

【名古屋】産業廃棄物処理大手のダイセキは6日、2016年2月期連結決算で売上高

が前期比11%増の508億900万円、経常利益が同6・9%増の79億5500万円、当期純利益が4・6%減の38億4700万円を計上したと発表した。

主力事業である工場廃液の中間処理・リサイクル業は、国内工業生産が低迷している影響で受注が伸び悩んだほか、原油安の影響でリサイクル燃料価格が大幅に下落するなど外部環境の悪化を受け、減収・減益となった。

鉛リサイクル事業を行うダイセキMCRRは金属相場の下落により、赤字幅が拡大しているが、徐々に稼働率が上昇し、改善に向かっている。土壌汚染の調査・分析・処理事業では、ダイセキ環境ソリューションは国内不動産取引や公共投資・建設需要の拡大を受け、順調に受注件数を拡大。収益は過去最高を記録している。大型タンクの洗浄事業を行うシステム機構も業績は堅調推移している。

17年3月期は売上高で前期比6・5%減の474億9000万円、営業利益が同2%減の76億9000万円、経常利益が同6・8%減の77億2000万円、当期純利益は同7%増の41億2000万円を予測している。